

今後の保健・医療対策について

結核以外の健康課題を中心に



四天王寺大学大学院人文社会学研究科

NPO HEALTH SUPPORT OSAKA

逢坂 隆子

2012・8・7 西成特区構想有識者座談会

はじめに

- あいりんの結核以外の健康問題とその対策に焦点を絞る
- 日雇労働者（野宿を余儀なくされている人を含む）の健康課題に対応できる保健・医療対策について提案する

野宿を経験し、生き延びてきた

— 大阪市のホームレス死亡調査より —

- ◆ 2000年大阪市内で発生したホームレス者の変死の全数調査（大阪府監察医事務所と共同研究 294例のうち野宿者の死亡213例・簡易宿泊所投宿者の死亡81例）**死亡時の平均年齢は56歳**
- ◆ 総死亡のうち、病死は172例（59%）自殺は47例（16%）他殺6例（2%）不慮の事故43例（15% **餓死8例、凍死12例含む**）
- ◆ 死因が結核である死亡19例＋死亡時に活動性結核を有する結核10例＝29例（**結核関連死亡は全死亡の1割**）
 - 総死亡のSMR(全国男＝1)は3.6 死因別では**結核44.8**
- ◆ 死亡発見時の状況
 - 高度腐敗 24例(8%) ミイラ化 1例 白骨化 6例**

健康に影響を及ぼす生活歴・家族歴・生活習慣

- **家族との縁が薄い人びと**(未婚6割・離婚3割強、ほとんどが家族と連絡なし)⇒**単身・男性**
- **教育との縁も薄い**(中卒以下6割 一度も学校に行ったことのない人も)
- 幼少時から、貧困、家庭環境にめぐまれない人が多い⇒**身長**の低い者が多い(成長期に必要な栄養が摂取できていない状況を示す)
- **歯の状況が極めて悪い**(6割以上が40歳までにほとんど役立たないような歯になっている)
- 腰やひざなどの関節症や外傷の既往をもつもの、野宿中に被害を受け火傷、骨折などの後遺症残るもの・・・
- **長年の厳しい日雇い労働の末に、野宿生活を余儀なくされ、身も心もボロボロ・・・**

日雇労働者(野宿を余儀なくされている人を含む)の 健康課題

□ 建設労働に特有な課題

(アスベスト・原発・その他肉体労働による健康破壊)

□ 野宿による健康破壊

⇒アルコール依存症や問題飲酒習慣 薬物依存

⇒不眠症、うつ状態などのメンタル疾患

⇒低肺機能

←粉じん環境労働従事歴＋ 結核既往歴＋ 喫煙率高い＋

⇒高血圧症、とくに重症高血圧症

←塩分とりすぎ・飲酒習慣・必要な治療を継続できていない

⇒糖尿病(栄養不良にもかかわらず) ⇒結核対策上の課題

⇒肝機能障害(感染性・アルコール性)

今後の保健・医療対策

- ・ 長期にわたり、日雇労働者（野宿を余儀なくされている人を含む）の健康課題に対応できる「最も地域で必要とする医療」が地域内にはなかった
- ⇒ 地域内の労働者の命が蝕まれ、健康が破壊されていることを放置し続ければ、地域住民全体の健康が維持されず、環境改善にもつながらない
- ⇒ 地域の健康課題に真摯に向き合い、地域住民から信頼される医療が身近の通院可能な場所で提供されれば、貧困ビジネスが入り込む余地はないのではない
- ・ 救急車に頼らなくてもいいような保健・医療をあいりんに
 - ・ 地域の健康課題に柔軟に対応できる医療をあいりんに

公衆衛生部門を含む地域保健・医療の拠点必要

- ・ 地域に密着し、あらたな健康課題にも柔軟に対応していくためには、公衆衛生部門を併せ持つ医療機関であることが必要
- ・ **NPO HEALTH SUPPORT OSAKA**の実践的研究活動はそのためのモデルであると考えている
- ・ 地域の健康課題はNPOのような小さな組織だけで対応できるものではない。ぜひとも大阪府・市行政を含め、多くの組織・団体・専門家の力をあわせて、一步一步、解決への道を探ることが必要

あいりんの保健・医療対策について継続的に話し合う場が必要